

【議事録】 要点筆記

会議名	第1回エリアマネジメント専門分科会	会場	芦屋町役場 44 会議室			
日時	令和2年12月16日(水) 19:00~20:00					
件名・議題	1 開会 2 委嘱状交付 3 会長・副会長選出 4 議事 (1) これまでの経緯について (2) 今後のすすめ方について					
委員の出欠	会長	内田 晃	出		今泉 節	出
	副会長	志賀 勉	出		龍 啓明	出
		大方 優子	出			
事務局等の出席	<b>【事務局】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芦屋町 芦屋港活性化推進室</li> <li>・ 芦屋町 産業観光課 商工観光係</li> </ul> <b>【事務局支援】</b> 株式会社オリエンタルコンサルタンツ九州支社					
合意・決定事項	○会長・副会長は、委員の互選により次のとおり選任された。 会長：内田晃氏、副会長：志賀勉氏  ○今後のすすめ方について、承認された。					

# エリアマネジメント専門分科会（令和2年12月16日開催分）議事録

## 1 開会（副町長あいさつ）

町長が公務のため代理としてあいさつ。

この度は、エリアマネジメント専門分科会の委員に就任いただき、感謝申し上げます。

芦屋町のイメージは、古くからボートレース芦屋、航空自衛隊芦屋基地、最近では、茶の湯釜である芦屋釜、砂でつくる砂像展のイメージが高くなってきているが、地方創生の観点から海を活かしたまちづくりをすすめている。その中で、芦屋港の活性化が1番手の事業で、「芦屋港活性化基本計画」をまとめ、福岡県による芦屋港港湾計画の変更が11月に承認された。

これからは次のステージに移り、芦屋町にとっては非常に重要となる。「芦屋港活性化基本計画」の課題を検討しながら、時代の変化を捉えつつ、芦屋港とその周辺を面と捉えて活性化を推進していかなければならない。

エリアマネジメント専門分科会委員の皆さまには、管理運営方法や組織形成のあり方について、忌憚のないご意見、お知恵を賜るようお願いしたい。

## 2 委嘱状交付

■芦屋港活性化推進委員会設置条例（平成29年条例第18号）第5条に基づき臨時委員の委嘱状を副町長より交付。

## 3 指名書交付

■芦屋港活性化推進委員会設置条例（平成29年条例第18号）第8条に基づきエリアマネジメント専門分科会委員の指名書を芦屋港活性化推進委員会の内田委員長より交付。

## 4 会長・副会長選出

■芦屋港活性化推進委員会設置条例（平成29年条例第18号）第9条に基づき、当分科会の会長及び副会長について、委員の互選により、次のとおり選任した。

会 長：内田委員

副会長：志賀委員

## 5 議事

■事務局より、委員及び事務局の紹介を行った。

### （1）これまでの経緯について

■資料1にて、芦屋港活性化基本計画の概要や導入機能、今後の方向性について説明。【事務局】

今後議論の対象となる管理運営方法についての考え方や将来ビジョン及びコンセプトなどについて説明。【オリエンタルコンサルタンツ】

- ボートパーク、1号上屋をリノベーションした複合施設、全天候型施設（砂像展示イメージ）、海釣施設などの導入機能を、どのように管理していくかを議論していくことになる。資料1に対して意見はないか。【会長】  
⇒意見なし。【委員】

## （2）今後のすすめ方について

- 資料2にて、本分科会での議論のポイントとスケジュール、新型コロナウイルスの状況を踏まえ、近距離の観光である「マイクロツーリズム<sup>※1</sup>」、テレワークを活用し働きながら休暇をとる「ワーケーション<sup>※2</sup>」の導入、「日常使いの視点」をコンセプトに追加し検討することを説明。また、今後検討する管理運営の方向性のイメージについて説明。  
【オリエンタルコンサルタンツ】

※1 マイクロツーリズム

自宅から1時間圏内の地元または近隣への観光を指す。

※2 ワケーション

「ワーク」（労働）と「バケーション」（休暇）を組み合わせた造語で、観光地やリゾート地でテレワーク（リモートワーク）を活用しながら、働きながら休暇をとる過ごし方。

- 芦屋町も新型コロナウイルスの影響を受け、観光分野では、アクアシアンの中止を受け、夏の観光入込客が大きく減少している。その影響で、芦屋タウンバスも大きく減収している。新型コロナウイルスによる影響を踏まえ、事務局より提案があった。マイクロツーリズムとして、近距離をターゲット層としながら、組織形成の方向性の考え方として案が示された。次回分科会では、各手法のメリット・デメリットを整理して、参考事例などを考慮し、議論をしていくこととなるが、事務局の提案に対して各委員の意見はないか。【会長】

- 将来ビジョンとコンセプトに、普段使いの視点を追加していることは良い視点だと考える。追加した経緯を説明してほしい。また、地域の方が利用することに対するリサーチなど、地元ニーズが分かるものがあれば説明してほしい。【委員】

- ⇒芦屋港活性化基本計画の策定において、普段使いの視点が議論されてきた。今後、官民連携を行う中で、休日のみでは収支バランスが難しいため、日常的に利用してもらえることが民間事業者の参画意欲向上に繋がる。そのため、マイクロツーリズムとして近場からのリピーターを確保することが重要と考えた。今後、分析を進め、次回分科会にてリサーチ等の結果で示すことができる内容を提示したい。【オリエンタルコンサルタンツ】

- ⇒地元周辺でのニーズがどこにあるかは重要な視点であるので、資料としてまとめられれば示してもらいたい。【会長】

⇒来年度、地元の機運醸成としてテストマーケティングを検討している。機運醸成についても並行して検討するため、今後、分科会で考え方を示していきたい。【事務局】

⇒日常使いや普段使いもレベルがある。アクティビティも想定できる。サークル活動で集まったり、図書館であったり等、公共施設であればより日常使いに近いものとなる。いろいろな側面で検討してもらいたい。【会長】

○新型コロナウイルスの影響で視点として、マイクロツーリズムやワーケーションが提示された。ただ、新しい視点にこだわらず、最初にコンセプトに立ち返り、芦屋港を中心とした日帰り旅行でどう提案できるかが大切であり、サイクリングでの差別化など芦屋港の魅力を突き詰めていくことが重要である。ワーケーションについては、色々なところで言われているが、本当にニーズがあるか、不明なところもあるので、よく検討してもらいたい。【委員】

⇒芦屋の海が持つ魅力はここならではのものであり、釣りも含め近場のレジャーとしては魅力的である。普段使いの視点だけでなく、海が持つ魅力も大切にしながら、よく検討してもらいたい。【会長】

○マイクロツーリズムは近隣の方から芦屋がどうみえているか、ワーケーションは域外からどうみえているかを示すもので、マーケティングの手段のひとつになる。ワーケーション事例のひとつとして、長崎県壱岐市では、東京から20人程度の人を呼び、テレワークセンター（ハード面）を整備している。20人からは厳しい意見も出ているが、外からの視点をふまえて町を見直すという点では非常に良い視点である。また、芦屋町にある観光資源をいろんな角度でみていくことも大切となる。来年度の機運醸成にも繋がるので、テストマーケティングを行うことも良いと考える。【委員】

⇒今後、分析をすすめるうえで意見を参考にしながら検討していきたい。【事務局】

○福岡県としては芦屋町とお互いに協力しながら今後も活性化事業を進めていきたい。情報提供として、自転車道関係で、防波堤アート（防波堤に絵を描いてもらうもの）に取り組んでおり、岡垣町で年度内に2箇所描き上げる事業を行っている。また、自転車道の自衛隊芦屋基地前では、芦屋基地を紹介する看板を設置する計画で、サイクリストたちが集まれ、憩える場を提供していく考えである。芦屋港は、遠賀宗像自転車道、北九州直方自転車道の2つの自転車道が通過しており、サイクリングの起点となる場所である。県としても自転車道の整備をすすめており、芦屋港の活性化に繋がればと考えている。【委員】

⇒芦屋港活性化推進委員会でも自転車の話は出ている。サイクリストのニーズとして、ハード面及びソフト面ともに満たされていない状況であるため、発展途上にあると考えている。芦屋港は2つの自転車道が交わる場所であり、自転車から見える景観が変わるポイントであるので、サイクリストのための施設があると、集える場になる。また、サイクリスト、海釣り客など、色々な人の交流の場になるポテンシャルをもっている。【会長】

○事務局からの提案どおり、次回の分科会では、事例調査等をふまえて、管理運営の方向性について議論をしていきたい。特に次回は分科会の肝（ターニングポイント）になる議論となるので、しっかりと議論していきたい。【会長】